

医者も知らない平穩死



連載⑦ **〈長尾和宏〉**長尾クリニック院長。日本尊厳死協会副理事長。著書に「平穩死」10の条件など。

「平穩死と尊厳死の違いは何ですか?」「平穩死って、安楽死のことですよ?」という質問を受けることがあります。

「平穩死」という言葉は、「特別養護老人ホーム 芦花ホーム」の石飛幸三先生が著書「『平穩死』のすすめ」の中で最初に用いられました。ホームに入所している方々の自然な死を、延命治療

が邪魔している。どうして、自然に旅立っていけないのだろうか。そういう石飛先生のお考えが伝わるいい言葉だなあと、非常に感銘を受けたことを覚えています。

平穩死とはほぼ同じ意味の言葉に、「尊厳死」と「自

然死」があります。私の感覚では、平穩死は「老衰、認知症の終末期、末期がらん、臓器不全症による自然な旅立ち」、尊厳死は「交通事故などで意識が戻らなくなつた昏睡状態での延命中止も含む、自然な旅立ち」、自然死は「自然な経

平穩死は安楽死のこと?

(写真はイメージ)



過の先にある旅立ち」。尊厳死という言葉を怖がる人がいます。また、自然死は、戸外に放つておかれたいまま死んでいくような寂

しい印象があります。その点、「平穩死」なら、「平穩に自然な最期を迎える」という気持ちのスツと相手に伝わるように思い、私も

「尊厳死」について話ををする時、「平穩死」と表現させていたたくことにしました。

一方、安楽死とは全くの別物。「患者さんの希望で、人為的に死期を早める処置」です。

分かりやすく言うと、平穩死(尊厳死・自然死)は、不治かつ末期の状態に陥り、食べられなくなつても、人工的な水分・栄養補給をせずに自然な死を迎えること。安楽死は、「早く死なせてほしい」と患者さんに頼まれ、呼吸を止める注射をすること。平穩死に異を唱える方たち(残念なことに、医療関係者も含みます)は、時に、安楽死と混同していることが……。

私は平穩死には賛成ですが、人為的に「生」を止める安楽死には反対です。

(火曜掲載)